三重の周産期医療体制あり方検討会の検討状況について　【資料2】

第1回検討会の主な内容（R7.6.24）

○県内の周産期医療体制の現状と課題を整理
➡主に人手不足や分娩取扱施設への支援、妊婦に対するアクセス支援等の必要性について、意見をいただいた

第2回検討会の主な内容（R7.11.17）

○医療従事者等へのアンケート結果共有、分娩取扱施設等への支援策を提案
➡妊産婦や分娩取扱施設への財政的な支援を求める意見
➡助産師出向支援の拡充や承継後の施設の定着支援等の取組を提案
○次回以降の議論の方向性
・アクセス支援（交通費・宿泊費支援の充実、公共ライドシェアの取組の検討による妊婦にとって安心できる環境づくり）
・分娩機能のあり方（分娩取扱施設、分娩数の減少に備えた対応等の検討）

第3回検討会の主な内容（R8.7.6）

○妊産婦へのアクセス支援の取組について意見交換
➡新潟県・新潟大学からオブザーバーを招へいし、これまでの検討経過、アクセス支援の取組等を発表いただいた
➡三重県におけるアクセス支援及び公共ライドシェアを活用した妊産婦へのアクセス支援の取組及び今後の方向性について議論
○分娩機能の縮小に備えた体制・基準について意見交換
➡伊賀地域における急激な分娩取扱施設の減少や地域のお産が1箇所に集中してしまう場合等に備えた支援体制の必要性を議論

三重の周産期医療体制あり方検討会の検討状況について　【資料2】

議　題	委員等の主な意見
アクセス支援・公共ライドシェア	・新潟県では少子化対策として、全ての妊産婦がアクセス支援を受けられるよう補助制度を拡充 ・三重県においても、全ての妊産婦がアクセス支援を受けられるよう取り組んでほしい ・公共ライドシェア自体が浸透していないので、活用にあたっては、県民への利用方法の啓発も必要となるのではないか
分娩機能の縮小に備えた体制・基準	・圏域にとらわれすぎないように支援方法を検討することも必要ではないか（アクセス支援含め）
その他（必要な支援、今後の課題等）	・今後も医療従事者の労働環境等をより良くしていくことが重要であり、行政の支援も必要 ・5～10年先を見据え、周産期母子医療センターの病床機能の見直しの検討が必要

○第4回あり方検討会にて「分娩機能の縮小に備えた体制・基準」に関する事務局案を提示

➡急激な分娩取扱施設の減少が起きにくい体制、分娩取扱施設への支援策等を提案する